目次

凡例 …… 1
序章 …… 3

第一章　〈五部作〉構想とその生成
　第一節　二つの〈五部作〉 …… 11
　第二節　〈新潮五部作〉の問題点 …… 18
　第三節　〈初出五部作〉の「完成」 …… 24
　第四節　〈五部作〉テクストの生成過程 …… 28

第二章　『断橋』における「附録」の意義
　第一節　〈新潮五部作〉第二編『断橋』の「附録」 …… 29
　第二節　「附録」というテクスト …… 34
　第三節　〈一元描写〉による徹底的な改稿 …… 37
　第四節　初出「病客」の位置づけ …… 45
　第五節　「附録」の意味 …… 52

第三章　『非凡人』における語り手と焦点人物
　第一節　泡鳴〈一元描写〉の評価 …… 55
　第二節　物語論を参照して …… 58
　第三節　「人か熊か」に見られる焦点化 …… 63
　第四節　泡鳴小説の三人称と内的固定焦点化 …… 68

第五節　知られていない「お園の家出」 ……75

第四章　「離婚まで」の改稿に見る『征服被征服』の方法
第一節　遠藤清との出会い、同棲そして離婚 ……83
第二節　小説としての『征服被征服』 ……88
第三節　「離婚まで」に見られる改稿 ……91
第四節　「離婚まで」に見られる書信 ……98
第五節　小説家のクロニクル ……105

第五章　大正時代の「問題文芸」と早稲田派
第一節　「問題文芸」とは何か ……111
第二節　田中純から長谷川天渓へ遡る ……114
第三節　本間久雄と相馬御風の発言 ……118
第四節　明治後期の「問題文芸」 ……121
第五節　アーチャーの来日講演 ……124
第六節　個々の「問題文芸」として ……127
第七節　「生の哲学」や星湖研究へ ……131

参考文献 ……133
初出一覧 ……137